

# 《第2章》

## 白岡市の環境の現状と課題

# 1. 白岡市の環境の現状（資料編から抜粋）

## （1）概況

### 【位置と沿革】

白岡市は、埼玉県東部に位置し、総面積は約24.92km<sup>2</sup>、市域は東西9.8km、南北6.0kmであり、南東部はさいたま市及び春日部市、南西部は蓮田市、北部は久喜市、東部は宮代町にそれぞれ隣接しています。

前身である白岡町は、昭和29年（1954年）9月1日に日勝村、篠津村、大山村（上大崎を除く）の合併により誕生し、その後、平成22年（2010年）の国勢調査で人口が5万人を超えたことから、平成24年（2012年）10月に単独で市制施行し、白岡市となりました。

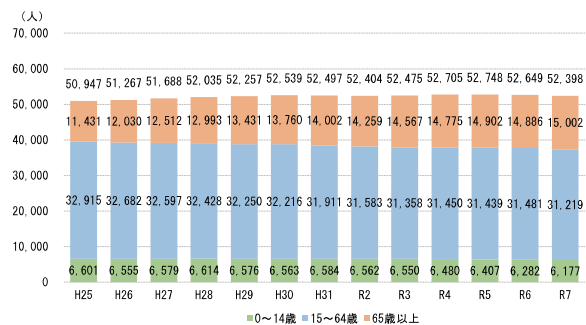


■白岡市の位置

### 【人口】

白岡市の総人口は、市制施行後の平成25年（2013年）以降は微増傾向となっており、令和7年（2025年）の人口は52,398人となっています。

年齢区別にみると、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）は減少傾向にある一方で、高齢者人口（65歳以上）は年々増加しており、平成25年（2013年）から約3,600人増加し、人口割合は28.6%となっています。



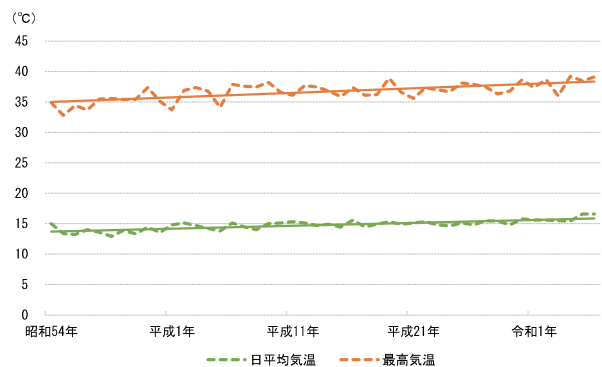
出典：埼玉県町（丁）別人口調査（各年1月1日）

■白岡市の年齢区分別人口の推移

### 【気象】

白岡市に最も近い久喜地域気象観測所の観測値によると、平成17年（2005年）～令和6年（2024年）までの20年間の平均では、年平均気温は15.3℃、年間降水量は1,272mmとなっています。

また、日平均気温及び最高気温は長期的な上昇傾向を示しております。



出典：気象庁

■気温の推移

## (2) 自然環境

### 【貴重な自然】

#### ●ふるさとの森

現在、市内には2か所の「ふるさとの森」が指定され、市民から親しまれています。

市内に残される樹林地の多くは、屋敷林や社寺林となっていますが、「彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森（ひこべえの森）」は、市内にわずかに残された雑木林のひとつであり、コナラ、クヌギ、イヌシデ、エゴノキなどの落葉樹と、シラカシ、ヒサカキ、シロダモなどの常緑樹がみられます。

#### ■「ふるさとの森」指定状況

No.	名称	所在地	面積	指定期間
1	彦兵衛下小笠原遺跡ふるさとの森	彦兵衛	1.21ha	令和4年4月1日 ～令和9年3月31日
2	八幡神社社叢ふるさとの森	白岡	0.51ha	令和3年4月1日 ～令和8年3月31日

出典：環境課

#### ●保存樹木・保存樹林

白岡市では緑豊かな住みよい自然環境を目指し、市内に残る健全で美観にすぐれ、市民に親しまれている樹木及び樹林を保存樹木・保存樹林に指定し、その維持管理に対して奨励金を交付しています。

現在は9本の保存樹木、8か所の保存樹林が指定されていますが、様々な事情で伐採されるなどして、指定解除される保存樹木も多く、一層の保全施策が求められます。

### 【ひこべえの森生き物調査】

ひこべえの森では、市民やボランティアによる生き物調査を実施しています。令和2年度の調査では、以下のような動植物が確認されています。

#### ■調査で確認された動植物

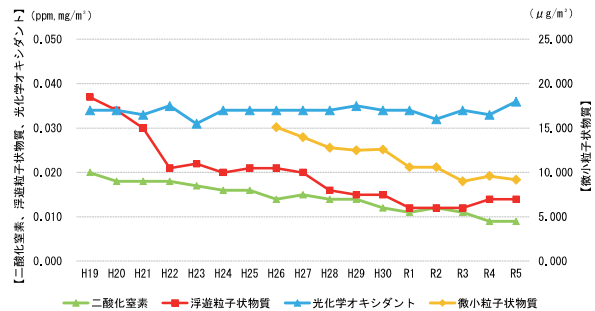
項目	種名
動物編	ニホンアマガエル、ニホンカナヘビ、ショウリョウバッタ、キアゲハ、ナガサキアゲハ、カブトムシ、キジ、コゲラ
植物編	ヒメコウゾ、サンショウ、コナラ、クヌギ、ゴンズイ、ウド、ヘクソカズラ コバギボウシ、ヤブヘビイチゴ

### (3) 生活環境

#### 【大気質】

県では、56 か所の一般環境大気測定局を設置し、大気汚染の測定を行っています。

環境基準と比較すると、二酸化窒素と浮遊粒子状物質においては継続して基準値を下回っています。また、平成 26 年度（2014 年度）から測定の始まった微小粒子状物質（PM2.5）も年平均値は減少傾向にあり、平成 27 年度（2015 年度）以降は環境基準値を下回っています。一方、光化学オキシダントは毎年上回っている状況が続いています。

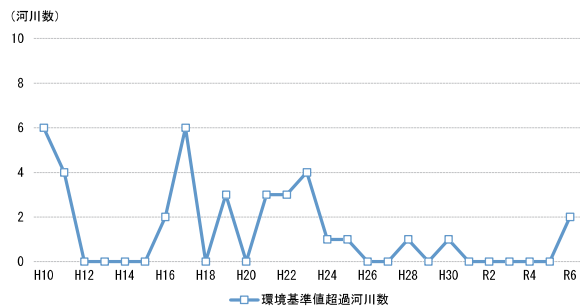


出典：埼玉県環境白書（埼玉県）、大気汚染常時監視測定結果報告書（埼玉県）  
**■大気汚染物質濃度の推移**

#### 【水質】

白岡市では、6 河川において夏季・冬季の年 2 回の水質検査を行っています。

代表的な検査項目である BOD（生物学的酸素要求量）の状況をみると、各河川とも夏季においては、環境基準値（C 類型：5mg/L）を下回っており、おおむね良好な状況にあるといえます。



出典：環境課  
**■環境基準値超過河川数の推移**

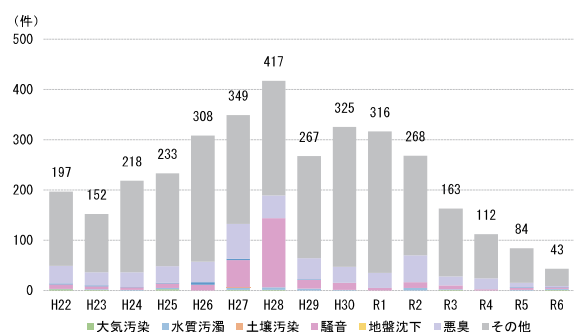
冬季においては、以前は多くの地点で環境基準値を上回っていましたが、近年は平成 28 年度（2016 年度）の姫宮落川、平成 30 年度（2018 年度）及び令和 6 年度（2024 年度）の隼人堀川、令和 6 年度（2024 年度）の元荒川で環境基準値を上回っているものの、

そのほかの河川では近年は環境基準値を下回っており、水質が改善されている状況にあります。

また、公共下水道は、令和 6 年度（2024 年度）末で約 37,100 人が利用しており、普及率は 70.6%となっています。

#### 【公害苦情】

白岡市の公害苦情の発生件数は、平成 28 年度（2016 年度）が 417 件と最も多くなりましたが、それ以降は減少傾向にあり、令和 6 年度（2024 年度）の苦情件数は、「大気汚染」が 1 件、「水質汚濁」が 2 件、「騒音」が 3 件、「振動」が 1 件、「悪臭」が 2 件、「その他」が 34 件、合計で 43 件となっており、平成 22 年度（2010 年度）以降で最も少ない件数となっています。



出典：環境課  
**■公害苦情の発生件数の推移**

### (4) 快適環境

#### 【公園緑地】

##### ●土地利用

白岡市の地目別土地利用をみると、令和5年度（2023年度）では「田」が18.3%、「畑」が24.2%と市では田畑など農地の割合が多く、市の緑地環境を特徴付けていますが、農地は年々減少し、耕作放棄地や宅地が増加する傾向となっています。

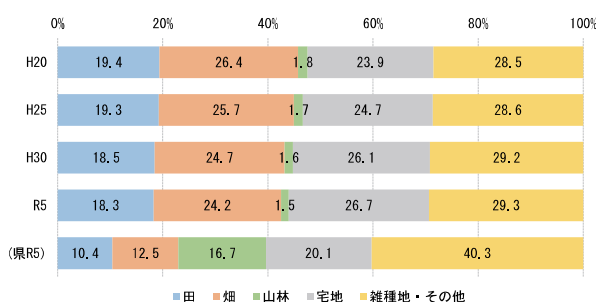
農地は、のどかで緑豊かな田園風景を構成するほか、様々な生き物の生息を支える貴重な役割を担っており、未来に残すため保全していくことが大切です。

また、市内の山林はごく限られており、市にとって、主要な樹林地である屋敷林や社寺林は非常に貴重な緑地といえます。

##### ●公園

公園は、市民の健康づくり、憩い、交流の場として、また災害時の避難場所や防災空間として重要な機能を担っています。

市には31か所、37.79haの都市公園があり、平成30年度（2018年度）は一人当たりの公園面積は県平均を上回っていましたが、令和4年度（2022年度）は県平均を下回る水準となっています。



出典：市町村勢要覧（埼玉県）、  
埼玉県統計年鑑（埼玉県）

##### ■地目別土地利用

##### ■都市公園整備状況

年度	自治体	都市計画区域人口 (千人)	箇所	面積 (ha)	一人当たりの公園面積 (㎡/人)
H30	白岡市	52	31	37.79	7.27
	埼玉県	7,321	5,318	5,098.43	6.96
R4	白岡市	53	31	37.79	7.13
	埼玉県	7,317	5,720	5,293.65	7.22

出典：市町村別都市公園整備状況（埼玉県）

#### 【文化財】

白岡市には、県指定2件、市指定54件の指定文化財があり、市の歴史や民俗文化を伝えています。

指定文化財は、古くから開けた篠津・白岡地域の寺社をはじめ、人々の生活の舞台となった市域全体に分布しています。代表的なものとしては、篠津久伊豆神社の社殿彫刻や野牛久伊豆神社の新井白石奉納扁額、観福寺の新井白石の肖像画などが挙げられます。

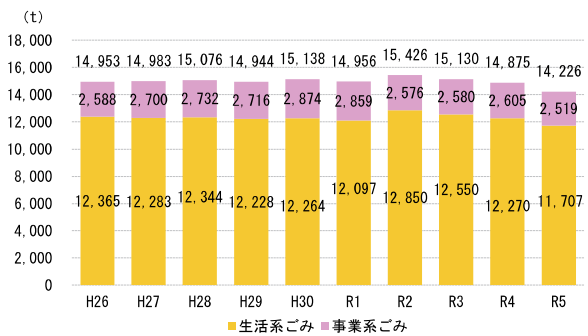
## (5) 地球環境

### 【資源循環】

#### ●ごみ排出量

白岡市のごみ排出量は、令和元年度（2019年度）までは多少の増減はあったもののおおむね横ばい傾向を示し、令和2年度（2020年度）に15,426tと近年で最も多くなりましたが、それ以降は年々減少しています。ごみの区分をみると、総排出量の8割以上を生活系ごみが占めています。

また、1人1日当たりのごみ排出量も総排出量と同様の傾向を示しており、令和2年度（2020年度）以降は年々減少しています。白岡市の1人1日当たりのごみ排出量は、常に全国及び埼玉県 averages を下回る水準で推移しています。



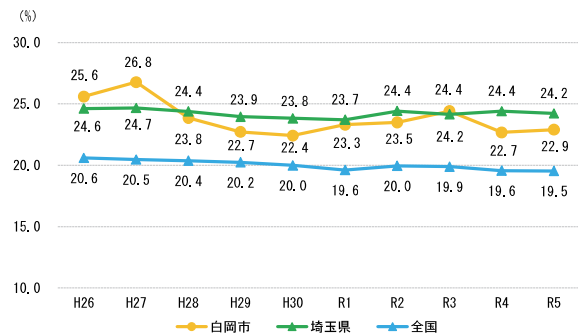
出典：一般廃棄物処理実態調査（環境省）

#### ■ごみ排出量の推移

#### ●リサイクル

白岡市では、家庭ごみを6分別により収集していましたが、平成24年（2012年）10月から新たに8分別とし、収集・中間処理による資源物の回収を行っています。

リサイクル率をみると、国平均を上回り、県とほぼ同等の値で推移していましたが、平成28年度（2016年度）以降は減少傾向を示し、県平均を下回る値となっています。



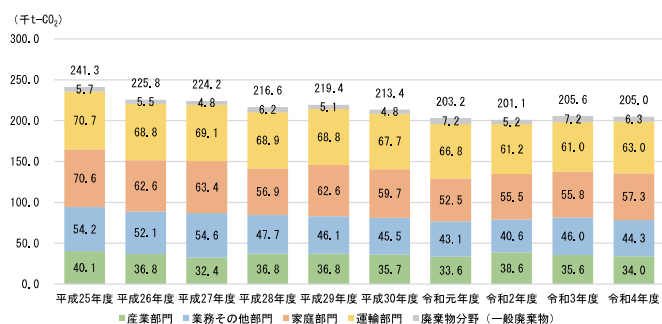
出典：一般廃棄物処理実態調査（環境省）

#### ■リサイクル率の推移

### 【地球温暖化】

令和4年度（2022年度）に白岡市から排出された二酸化炭素の排出量は205.0千t-CO<sub>2</sub>であり、令和2年度（2020年度）までは減少傾向にありましたが、令和3年度（2021年度）及び令和4年度（2022年度）はわずかに増加しています。

温室効果ガスの排出量については、令和3年10月22日に閣議決定された国の地球温暖化対策計画で、令和12年度（2030年度）に温室効果ガスを平成25年度（2013年度）比で46%削減することを目標としています。白岡市の排出量は平成25年度（2013年度）の241.3千t-CO<sub>2</sub>と比較すると令和4年度（2022年度）で15.0%の減少となっています。



出典：自治体排出量カルテ（環境省）

#### ■二酸化炭素排出量の推移

## 2. 環境に関する市民・事業者アンケート調査

第2次白岡市環境基本計画の改訂に当たり、環境に対する市民や事業者の意識や要望を把握するために環境に関するアンケート調査を実施しました。

環境に関するアンケート調査は以前にも実施しており、可能な限り経年比較を行うことで市民や事業者の意識の変化を把握することとしました。

### 【アンケート調査実施時期】

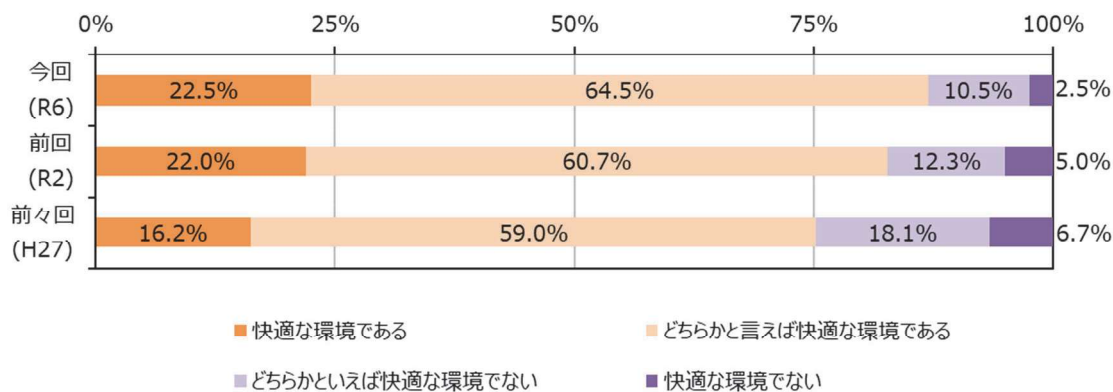
- ・今回（R6）：第2次計画改訂時
- ・前回（R2）：第2次計画策定時
- ・前々回（H27）：第1次計画改訂時

※調査結果の詳細については資料編に示し、本項及び次項では項目を抜粋して記載しています。

### （1）環境の快適さ

「快適な環境である」が22.5%、「どちらかと言えば、快適な環境である」が64.5%と80%以上の市民が身近な環境を快適であると感じています。

前回、前々回と比較すると、「快適な環境である」「どちらかと言えば、快適な環境である」が年々増加しています。



有効回答者数：今回476 前回422 前々回315

### ■ 居住する地域を中心とした環境の快適さ

## (2) 環境基本計画の施策の満足度と重要度

### ①市民

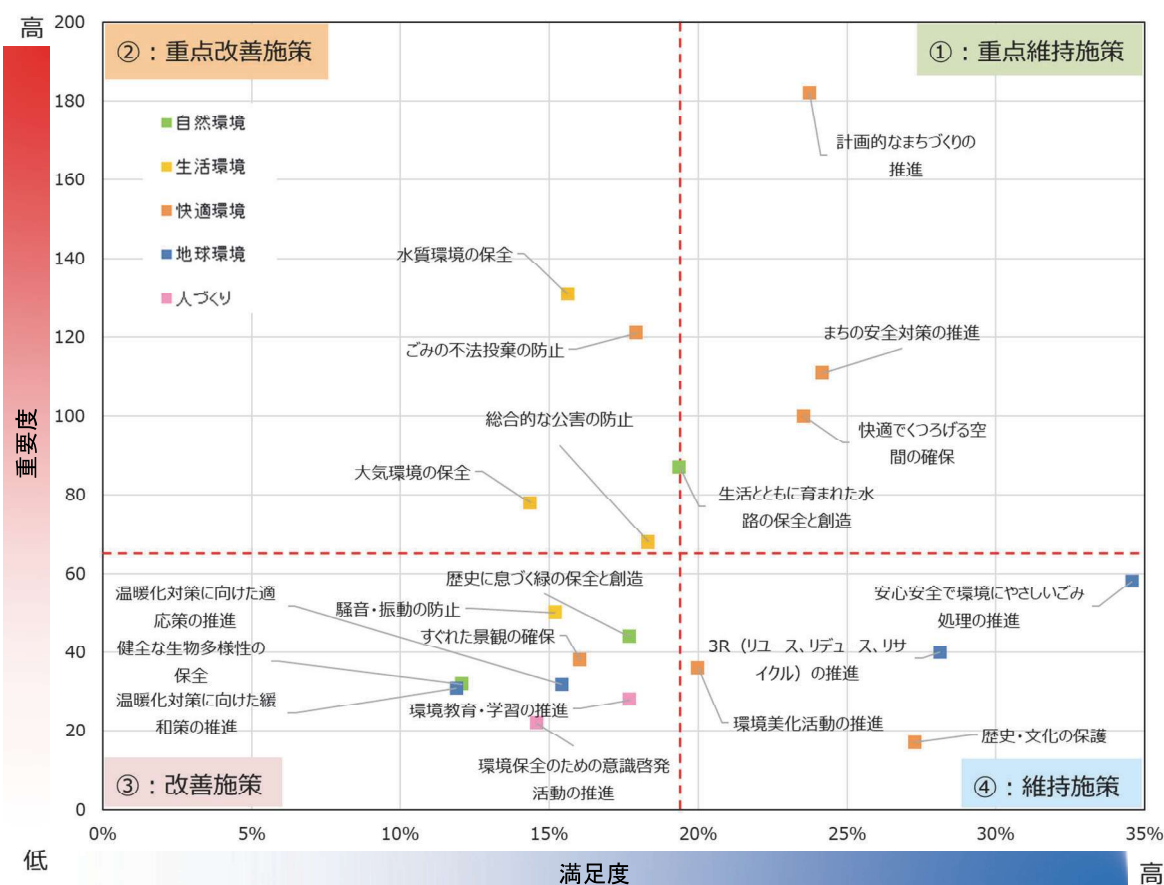
環境基本計画のそれぞれの施策について、満足度と重要度の結果を基に4つのグループに分け、今後重点的に改善すべき施策やそのまま持っていくべき施策を分析しました。

重点維持施策は快適環境のうち、まちづくり関連の施策のみとなっており、重点改善施策は水質、大気環境の保全、公害の防止、水路の保全といった生活環境寄りの施策となっています。生物多様性の保全や緩和策・適応策、人づくりといった施策は重要度も満足度も低く、今後の意識啓発が課題となります。リサイクルやごみ処理、環境美化については、重要視はされていませんが、満足度が高くなっています。

■各グループの概要

グループ	施策	満足度	重要度	概要
①	重点維持施策	高	高	重点的に維持すべき施策
②	重点改善施策	低	高	重点的に改善すべき施策
③	改善施策	低	低	改善すべき施策
④	維持施策	高	低	維持すべき施策

※「満足度」と「重要度」の高低はそれぞれの平均値を基準とした。



※「満足度」と「重要度」の値はそれぞれ以下のとおりとし、赤破線はそれぞれの平均値を示す。

満足度：市民アンケートの問 13 における各施策の「効果があったと思う」と回答した割合

重要度：市民アンケートの問 14 における各施策の得票数

■環境基本計画の施策の満足度と重要度（市民）

②事業者

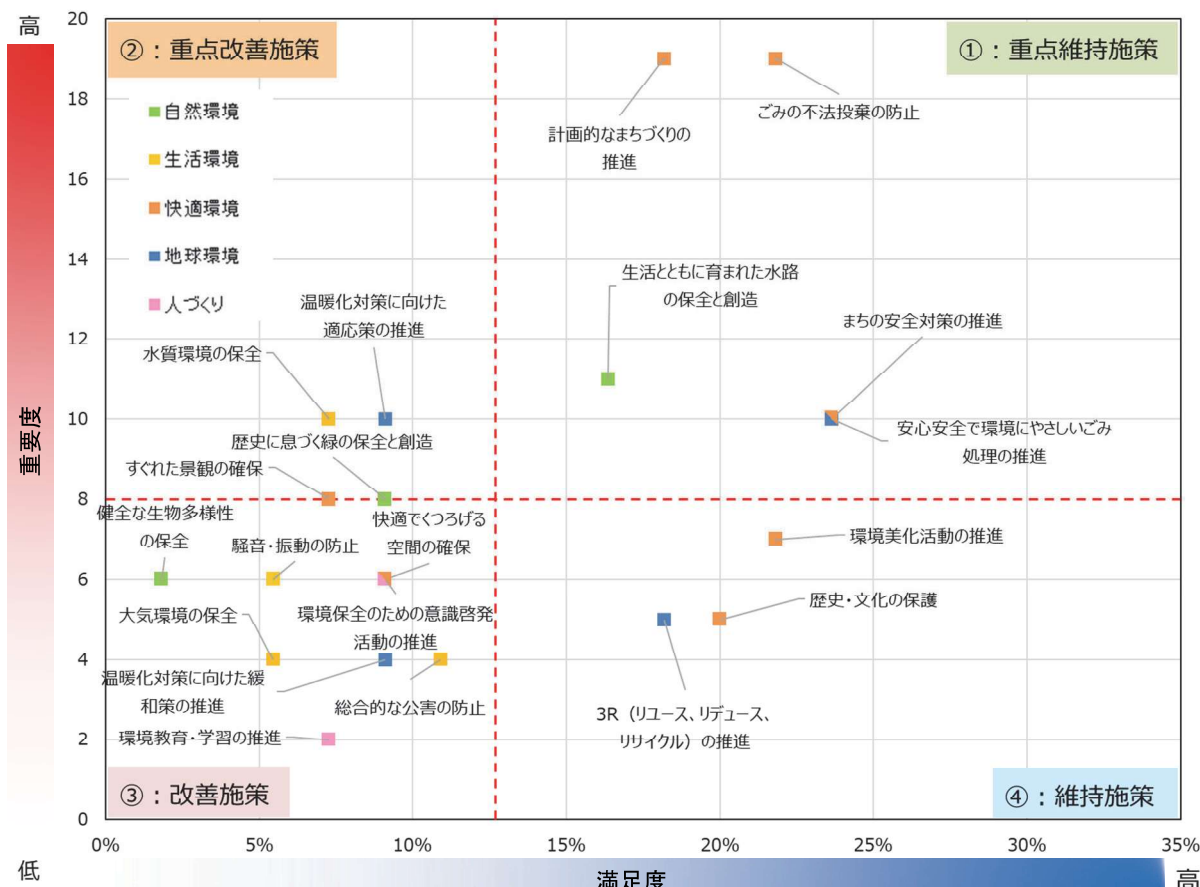
市民アンケートと同様に、環境基本計画のそれぞれの施策について、満足度と重要度の結果を基に4つのグループに分け、今後重点的に改善すべき施策やそのまま持っていくべき施策を分析しました。

おおむね市民アンケートと同様の傾向が得られましたが、大気環境の保全、快適でくつろげる空間の確保については市民よりも満足度と重要度が下がり、適応策の推進、ごみ処理の推進については重要度が高い結果となりました。

■各グループの概要

グループ	施策	満足度	重要度	概要
①	重点維持施策	高	高	重点的に維持すべき施策
②	重点改善施策	低	高	重点的に改善すべき施策
③	改善施策	低	低	改善すべき施策
④	維持施策	高	低	維持すべき施策

※「満足度」と「重要度」の高低はそれぞれの平均値を基準とした。



※「満足度」と「重要度」の値はそれぞれ以下のとおりとし、赤破線はそれぞれの平均値を示す。  
 満足度：事業者アンケートの問18における各施策の「効果があったと思う」と回答した割合  
 重要度：事業者アンケートの問19における各施策の得票数

■環境基本計画の施策の満足度と重要度（事業者）

### 3. 白岡市の環境課題

#### (1) 自然環境に係る課題

本市における自然環境の構成要素は、低地部では水田雑草群落、台地部では果樹園、畑雑草群落が大部分を占めており、農地に伴う植生が緑の主体をなしています。

平成24年（2012年）10月の市制施行や圏央道の県内全線開通など、本市を取り巻く社会情勢は大きく変化し利便性が向上した一方で、宅地開発などの進行や農業従事者の高齢化・後継者不足によって、緑地や農地が減少し、生物種への影響や環境負荷の増大が懸念されます。

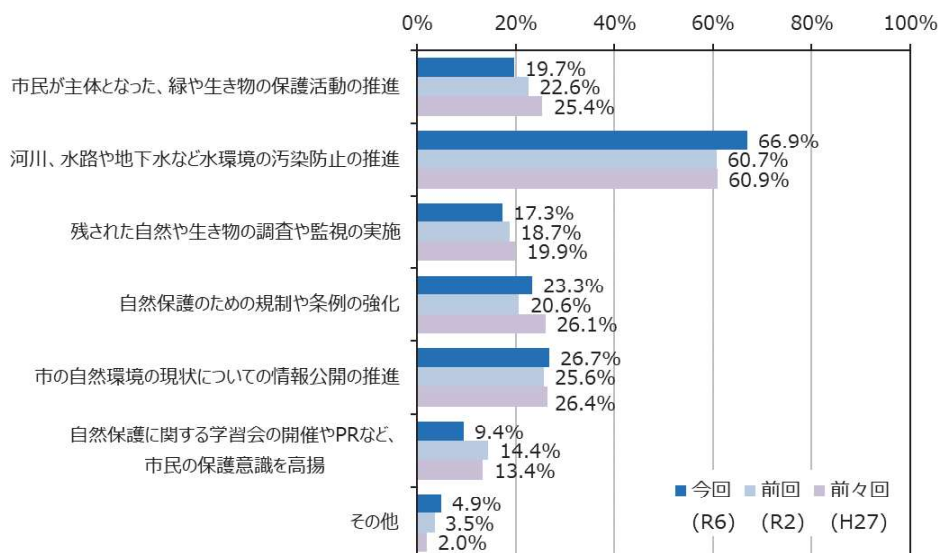
樹林地や農地が減少すると、状況に適応した種によって動物相が形成され、自然環境への依存が強い動物類は姿を消してしまいます。そのため、多様な動植物の生息・生育空間となっている樹林地や農地、水辺空間を守り、育てることで、市の豊かな自然を将来に残すことが大切です。

また、農地は保水・遊水機能など、防災面においても重要な役割を果たしているため、保全していく必要があります。

近年では、特定外来生物であるアライグマなどによる農作物被害や、生態系に被害を及ぼす外来種などの生き物に係る問題が顕著になってきています。

#### 【環境に関する市民・事業者アンケート調査結果】

市民アンケートの調査結果では、市の自然を守るために進めるべき取組として、「河川、水路や地下水など水環境の汚染防止の推進」が66.9%と最も高く、前回、前々回よりも高くなっています。この項目は前回、前々回の調査においても60%以上と高くなっていたことから、良好な水環境に対する関心が高い状況がうかがえます。



有効回答者数：今回468 前回402 前々回307

#### ■白岡市の自然を守るために進めるべき取組（市民）

## (2) 生活環境に係る課題

市に寄せられる公害等の苦情件数については、年々減少傾向にあり、令和6年度（2024年度）における典型7公害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭）の苦情件数は9件、その他（害虫、不法投棄等）を含めた合計でも43件であり、平成22年度（2010年度）以降で最も少ない件数となっています。

しかし、本市を流れる河川の水質については、以前と比較すると改善の傾向が見られますが、いまだ冬季に環境基準を超過する箇所があり、市民アンケートにおいても、気にかかる環境問題としてポイ捨てやごみの不法投棄に次いで2番目に挙げられています。

冬季における水質汚濁は、水量の減少と生活排水による汚濁が影響しているものと考えられ、改善に当たっては、生活排水対策が求められます。

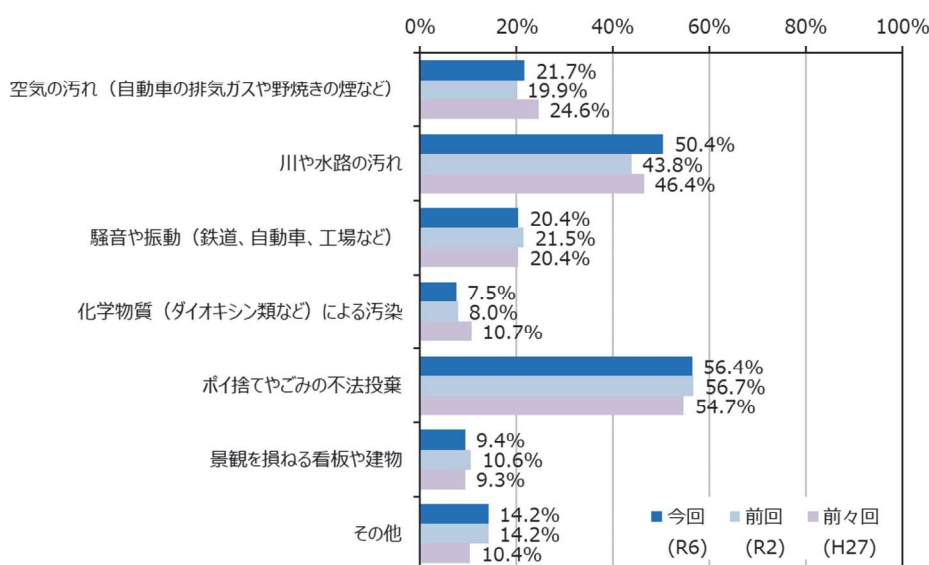
また、大気質の光化学オキシダントや自動車交通騒音についても、環境基準を超過している地点が見られており、更なる対策が求められています。

都市・生活型公害の対策に当たっては、国や県などと連携した実態の把握や、市民・事業者の日常生活、事業活動における環境への負荷の低減に努めていくことが必要です。

### 【環境に関する市民・事業者アンケート調査結果】

市民アンケートの調査結果では、白岡市において気にかかる環境問題として、「ポイ捨てやごみの不法投棄」が56.4%と最も多く、次いで「川や水路の汚れ」が50.4%、「空気の汚れ」が21.7%、「騒音や振動」が20.4%となっています。「その他」の回答としては、街路樹や側溝の管理不足などが挙げられました。

前回、前々回と比較すると、「ポイ捨てやごみの不法投棄」は、わずかに減少していますが、50%以上の市民が気にかけています。「川や水路の汚れ」、「空気の汚れ」は、前回までは減少傾向にありましたが、今回は増加しました。



有効回答者数：今回466 前回386 前々回289

■白岡市において気にかかる環境問題（市民）

### (3) 快適環境に係る課題

本市は、圏央道の県内全線開通など、道路整備は進んでいますが、未整備となっている生活道路においては、道が狭い、あるいは歩道や自転車道がなく車の往来が間近にあって危険な箇所があります。

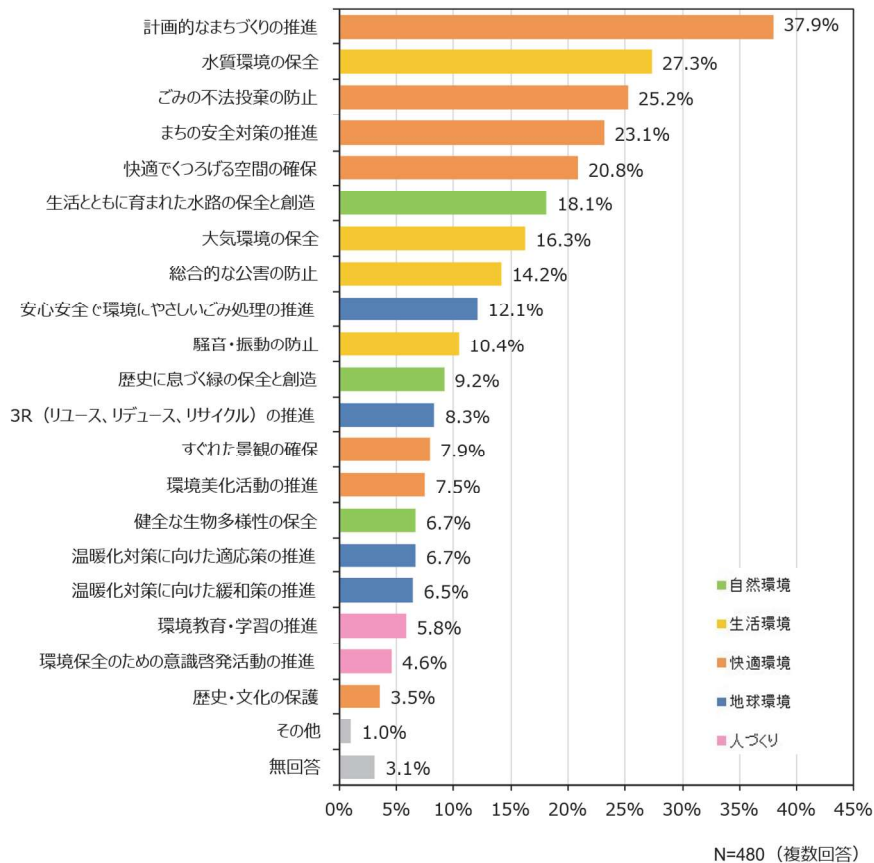
市民が快適に生活するためには、アンケート調査結果からも分かるとおり、計画的で安全なまちづくりを進めていくとともに、水、緑、花などの美しい景観・環境を守り、まちの景観を損なうポイ捨てや不法投棄などを防止することが重要です。

また、本市には、数多くの文化財などが存在しますが、これらは、先人たちから継承されてきた、市の風土や生活と深く関わってきた、貴重な文化遺産として、今後も保全・継承していかなければなりません。

#### 【環境に関する市民・事業者アンケート調査結果】

市民アンケートの調査結果では、重点的に取り組むべき環境基本計画の施策として、「計画的なまちづくりの推進」が最も多く37.9%、次いで「水質環境の保全」が27.3%、「ごみの不法投棄の防止」が25.2%となっていました。上位5施策中4施策は快適環境に関する施策となっており、市民の快適な生活に向けた施策が求められています。

なお、「計画的なまちづくりの推進」や「ごみの不法投棄の防止」については事業者アンケートにおいても上位となっており、市民だけでなく事業者からも望まれています。



■重点的に取り組むべき環境基本計画の施策（市民）

#### (4) 地球環境に係る課題

温暖化をはじめとする地球環境問題は、世界においてますます危機感と意識の高まりが進み、世界各地において様々な対策や、意識啓発活動、行動の促進が展開されています。

令和4年度(2022年度)に白岡市から排出された二酸化炭素の排出量は205.0千t-CO<sub>2</sub>であり、令和2年度(2020年度)までは減少傾向にありましたが、令和3年度(2021年度)及び令和4年度(2022年度)はわずかに増加しています。

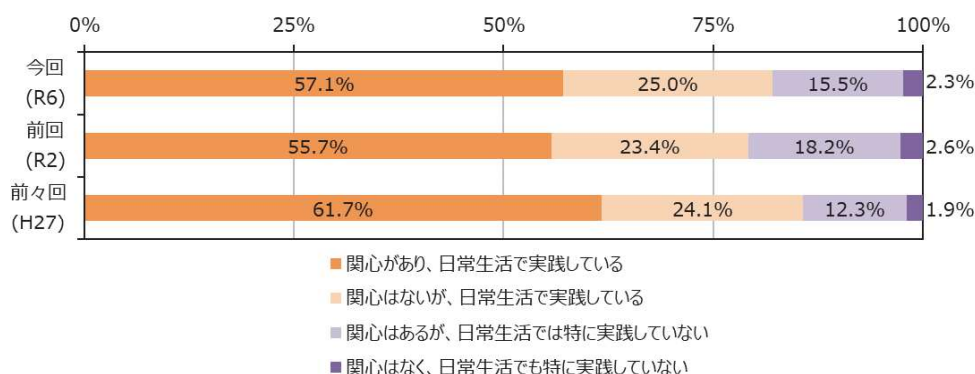
温室効果ガスの排出量については、令和3年10月22日に閣議決定された国の地球温暖化対策計画で、令和12年度(2030年度)に温室効果ガスを平成25年度(2013年度)比で46%削減することを目標としています。白岡市の排出量は平成25年度(2013年度)の241.3千t-CO<sub>2</sub>と比較すると令和4年度(2022年度)で15.0%の減少となっており、目標を達成するためには更なる温室効果ガス排出量削減に向けた取組が必要です。これには、省エネ行動の推進、再生可能エネルギーの導入、再生可能エネルギーを利用した電力への切り替えなど、私たちの日常生活や事業活動を、脱炭素型社会の構築を基本としたものに変えていくことが必要であり、様々な主体のあらゆる場面で地球環境のことを考えて取り組んでいくことが重要です。

一人一人が意識を変え、日常生活や事業活動を見直し、行動することが、地球環境を守ることに繋がります。

#### 【環境に関する市民・事業者アンケート調査結果】

市民アンケートの調査結果では、リサイクルや省エネルギーについて「関心があり、日常生活で実践している」が57.1%、「関心はないが、日常生活で実践している」が25.0%と8割以上の市民がリサイクルや省エネルギーに取り組んでいます。

取組を行わない理由としては、「どのような取組をすれば良いのかわからない」が半分以上を占めています。加えて、「面倒くさい」、「不便な生活を送る必要はない」という否定的な意見が増加しているため、リサイクル・省エネルギーで得られるメリットなどの情報提供や大きな負担とならないような取組の検討が重要です。



有効回答者数：今回476 前回418 前々回316

#### ■ リサイクルや省エネルギーについての関心（市民）

## (5) 人づくりに係る課題

環境の問題に関しては、一人一人の意識が重要です。また、就業地・生活圏の広域化、生活価値観の多様化などを踏まえ、地域の連帯意識を高めることも必要です。

そのため、学校教育で環境を考える機会を増やすことはもちろん、大人が環境について学ぶ機会を充実させることも必要です。これまで、市が行ってきた学習会やイベントをさらに充実させることも大切ですが、幅広い年齢層が日常から身近な場所で自らが関心を持って環境を考えるようになることも必要です。

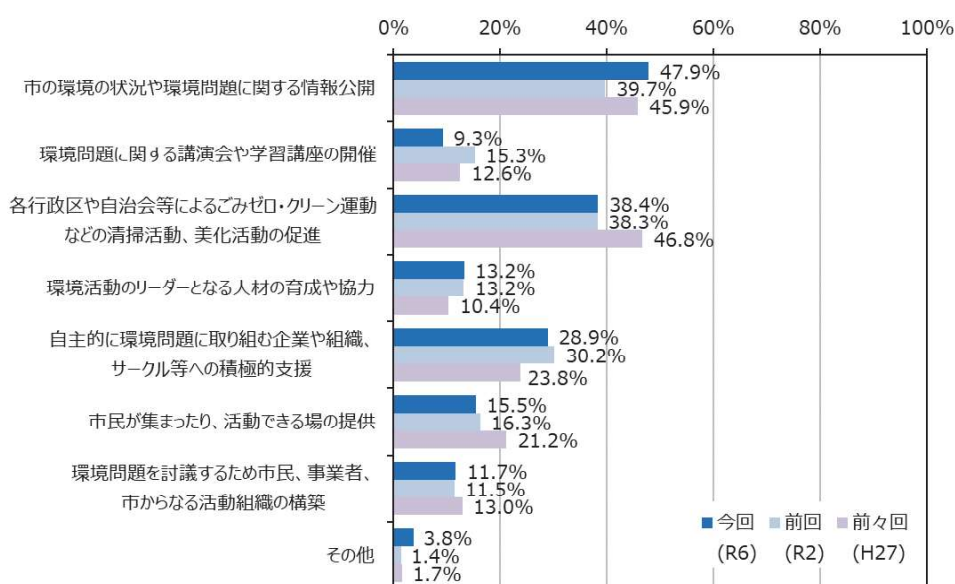
市には自然豊かな公園など世代を超えた交流の場、学習の場になる場所があります。市・市民・事業者が一丸となり、未来につながる環境学習のしくみ、人とのつながりをつくっていくことが望まれます。

あらゆる世代で環境問題を学び、考えることが、市の環境の保全と創造のための大きな行動につながります。

### 【環境に関する市民・事業者アンケート調査結果】

市民アンケートの調査結果では、参加してみたい自主的な環境づくり活動として地域に根付いた活動の得票率が高くなっていった一方で、「参加したいとは思わない」が25.6%となっており、環境づくりへの参加を促す必要があります。

また、市民が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきこととして、「市の環境の状況や環境問題に関する情報公開」が47.9%と最も多く、前回よりも大きく増加しています。その他にも「各行政区や自治会等によるごみゼロ・クリーン運動などの清掃活動・美化活動の促進」、「自主的に環境問題に取り組む企業や組織・サークル等への積極的支援」が望まれています。



有効回答者数：今回453 前回295 前々回231

■市民が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきこと（市民）